

# わたしたちの稲村城跡大発見

～歩いて発見・聞いて発見・話して発見～



- = 日時：2006年2月4日(土) 9時45分より受付
- = 場所：午前＝「九重そば」先の「成勇」向かい空き地(JR九重駅より徒歩10分)  
午後＝館山市立館野小学校体育館 12時30分より受付
- = 参加費：午前＝100円(マップ・保険料) 高校生以下は無料  
午後＝無料(資料冊子は別途有償頒布)
- = スケジュール 昼食は各自準備

**第一部 10:00～12:00 歩いて発見 フィールドワーク～稲村城跡を歩く**  
講師 遠山 成一氏、柴田 龍司氏 (千葉城郭研究会)

**第二部 13:30～14:30 聞いて発見 スライド講演**

講師 柴田 龍司氏 (千葉城郭研究会)

「里見氏稲村城跡と安房の城郭」

講師 滝川 恒昭氏 (里見氏研究者、千葉県史中世編調査執筆員)

「里見氏の歴史における稲村城とは」

**第三部 14:40～16:00 話して発見 座談会** - 50音順、敬称略 -

愛沢 伸雄 (里見氏稲村城跡を保存する会代表、NPOフォーラム理事長)

石井 進 (稲区在住、前区長)

岡田 晃司 (館山市立博物館学芸係長)

菅野 清次 (館山市立館野小学校長)

滝川 恒昭 (千葉城郭研究会、千葉県立船橋高等学校教諭)

山口 登 (館野地区コミュニティ委員会会長)

脇田 安保 (稲共有地代表、館山市議会議員)

<司会> 遠山 成一 (千葉城郭研究会、千葉県立四街道高等学校教諭)

- = 同時開催 “わたしたちの稲村城跡大発見”展示会 (立体模型、パネル、写真、手作り甲冑)  
“里見氏のお宝鑑定” <受付12時30分～13時20分>

ご自宅に埋もれた里見氏や稲村城に関するもの(古文書・資料・絵画・写真など)がありましたら、何でもお持ちください。専門家がコメントします。

主催：里見氏稲村城跡を保存する会、NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

共催：館山市稲区、館野地区コミュニティ委員会、館野地区公民館

後援：館山市、館山市教育委員会、館山市文化財保護協会、房総里見会、千葉城郭研究会

NPOミューズ安房、南総里見手作り甲冑愛好会、たてやま・コミュニティビジネス研究会

NPO全国生涯学習まちづくり協会

問合せ先:0470-24-0224 / 090-6479-3498 / npo@internet-ex.com

かの城山のしろあとの 草木をびかす風の音 むかしの人のほまれとぞ 今もわれ等に語るなり  
館野小学校 校歌

## = 稲村城跡 ~ 前期里見氏当主の居城、天文の内乱の舞台

館山市稲にある標高 64m ほどの丘陵で、北を流れる滝川を自然の濠とし、城山と呼ばれる主郭部と、その南に続く舌状小丘陵からなる。土塁(どるい)や堀切り、曲輪(くるわ)などの遺構をはじめ、「西門」「要害(ようがい)」「堀ノ内」などの地名が残り、裾部には室町後期の五輪塔や宝篋印塔も散在している。

北東 2 km の地点に安房国府をとらえ、それを眼下に鏡ヶ浦までの沖積平野を見渡す位置にある。安房の中枢部を押さえる要衝の城であり、領域支配の性格を持った城である。

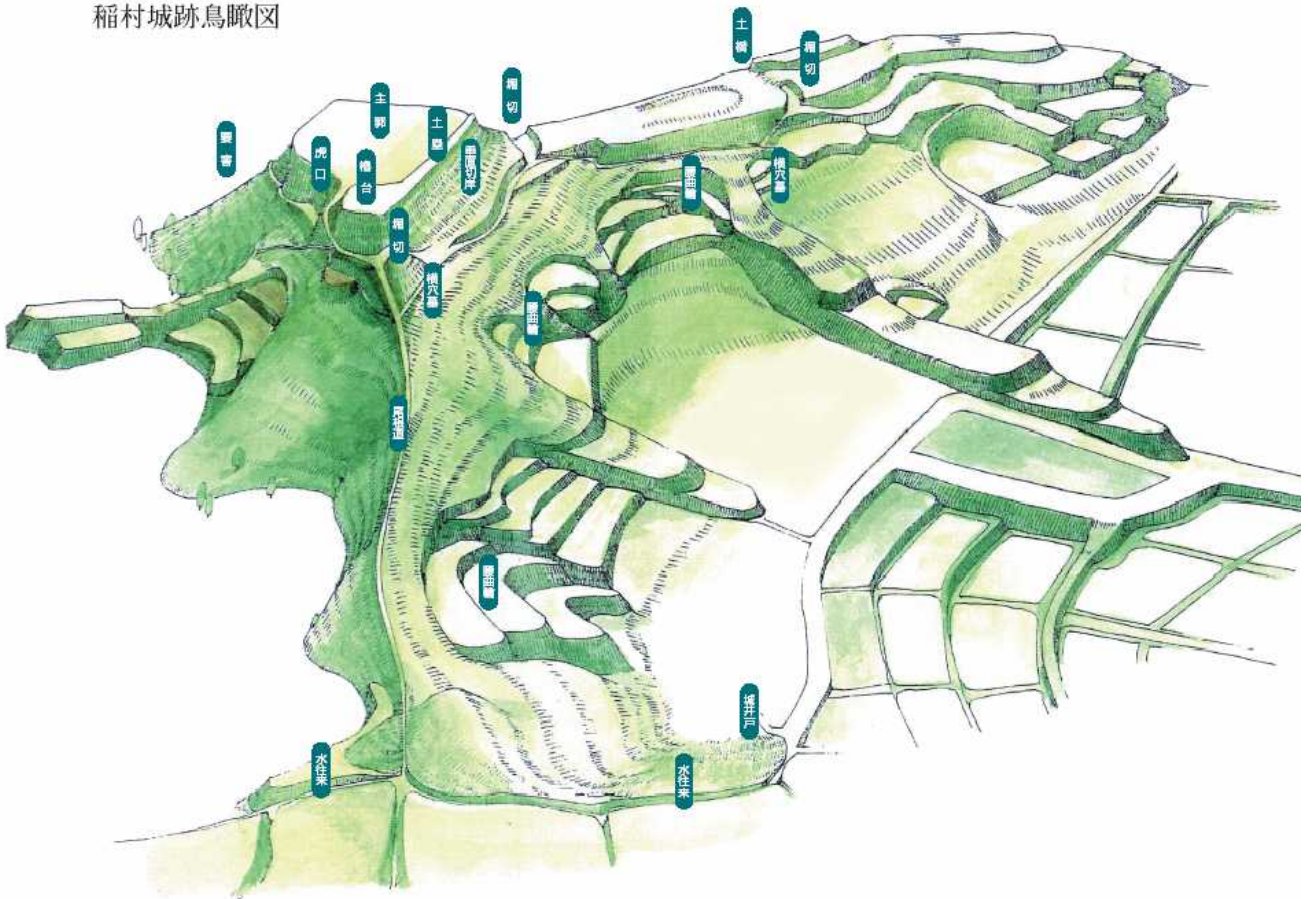
里見氏は白浜から長田城を経て、この稲村へ移ったとされ、里見成義から義通、実堯、義豊までの居城だったという。ここに城を取り立てたことは、里見氏が安房制覇を果たしたと切り離しては考えられない。ここで安房支配を確立し、上総進出の足掛かりをつくっていったのである。

しかし天文 2・3 年(1533・34)に里見一族内の権力争いの舞台となり、庶流の義堯が家督を握って居城を平群にうつすと、稲村城は廃城になったと伝えられている。

~ 'ふるさと百科たてやま大事典' より



稲村城跡鳥瞰図



[土塁] 矢や鉄砲などの攻撃から城内を守るため、郭・曲輪などの縁辺部に土を盛って造られた土手。

[堀切り] 敵の侵入を防ぐため、城内へ続く尾根を急角度に大きく断ち切って遮断したもの。

[曲輪・郭] 自然の地形を利用したり、地面を削平して造りだした城の居住や防御のための平場空間。

~ 'あわがいど 房総里見氏' より転載 (作図・愛沢彰子)